

カリキュラム

機構施設名： 和歌山職業能力開発促進センター
実施機関名： パナソニックエレクトリックワークス創研株式会社

(A)生産管理		成果を上げる業務改善
	生産・開発計画	

コースのねらい	生産性向上に資する業務改善の目的と必要性を理解し、改善の視点と具体的な進め方を習得する。
---------	--

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)
	1	業務改善と業務の可視化	(1)業務改善の必要性と考え方 ・日本のものづくりを取り巻く環境変化と企業が果たすべき役割と活動意義について説明し、改善活動を進める上での基本的な考え方について解説する。 ・生産活動の基本である3要素と4M管理の視点から、生産現場の問題点を整理する方法を解説する。 【演習】自社について考える（セルフワーク/グループ討議） (2)業務改善の見える化 ・生産現場でのモノの流れや人の仕事の流れを見える化することによって、職場全体の基本的な問題を把握する方法について解説する。 【演習】原価の見える化（セルフワーク）	2.5
	2	業務改善手法	(1)問題発見、解決 ・問題とは何か、問題と課題の違いを説明し、データに基づく問題発見や課題解決を行うための改善手法(ロジカルシンキング)について解説する。 【演習】問題分析手法（セルフワーク/グループ討議） (2)現状のムダに気づく ・生産現場におけるムダに気づくための着眼方法について、7つのムダと3Mの視点から解説する。 【演習】ムダに気づく（セルフワーク/グループワーク） (3)ムダの改善方法 ・IE手法を活用する目的・メリットを説明し、ムダな作業の抽出方法と具体的な改善方法について解説する。 【演習】作業におけるムダを見つける（セルフワーク/グループワーク） (4)改善活動の基本と進め方 ・改善活動への取り組みの基本姿勢と現場改善の着眼ポイント、実践の仕方について解説する。 ・継続的な改善のためのQCストーリーによる改善のステップアップを図る考え方について解説する。 【演習】QCストーリーによる改善（セルフワーク/グループワーク）	3.5
				合計時間
				6.0

カリキュラム作成のポイント
ものづくり現場における問題解決を通じて業務改善が図れるよう、現状分析手法・改善手法を習得し、問題発見・課題解決の考え方や進め方を演習を含めて習得できるようなカリキュラムにしました。

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用) ・筆記用具 ・電卓、またはスマホ	●機器・ソフトウェア(講師用・その他) ・講師用PC(持参) ・書画カメラ、ポストイット、模造紙等備品(必要時は弊社準備) ・ホワイトボード、マーカー(赤・黒)、プロジェクタ、スクリーン
●使用するテキスト ・自作テキスト(配布資料含む)	●その他

利用事業主に用意を求める機器等	備考
・ホワイトボード、マーカー(赤・黒)、プロジェクタ、スクリーン	・開講時、グループ毎の島形状レイアウト